

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	編集室からのお知らせ
別タイトル	NEWS FROM THE EDITORIAL OFFICE OF IGAKUKAI
公開者	東邦大学医学会
発行日	2014.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 61(1). p.73 74.
資料種別	その他
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD88078721

編集室からのお知らせ

東邦大学医療センター大森病院 CPC の一部を 東邦医学会共催とすることに関する打ち合わせ議事録

日 時：平成 26 年 1 月 8 日 16：00～16：45

場 所：東邦大学医療センター大森病院 2 号館 3 階カンファレンスルーム

出席者：澁谷和俊（大森病院病理診断科・病理部），三上哲夫（病理学講座），名取一彦（大森病院血液腫瘍科），住野泰清・高口亜維（以上，東邦医学会），並木 温（医学部卒後臨床研修/生涯教育センター），守誠太郎・永井由美子（以上，大森病院事務部人事課（実務担当者）），栃木直文・大久保陽一郎・石渡誉郎（以上，大森病院病理診断科（実務担当）），篠崎 稔・井手 忠（以上，大森病院病理部（実務担当者））

欠席者：島田長人（大森病院教育企画管理部）

※本文は職称及び敬称を略す。

議事

○現行の大森病院 CPC の運営手順の確認と点検

- ・毎回の臨床各科への連絡，調整および司会を血液腫瘍科の名取が担当している。参加者からの質問，プレゼンターからの応答の橋渡し，研修医に対する質問，臨床各科や放射線科へのコメント依頼等を行っている。
- ・大森病院事務部人事課は，澁谷より通知された確定症例を電算室に依頼して e-掲示板および Neptune mail での周知，当日の受付は研修医事務を所管している総務課（研修医に対する出席確認），当日配布する臨床経過記載の印刷および原本の保管を行っている。
- ・従前の業務は，運営形態に変更がある場合でも従前通りとする。

○東邦医学会例会・総会との共催について

- ・年 10 回開催（1 月および 8 月は休会）のうち，東邦医学会例会・総会と開催時期の重なる 2 月・6 月・11 月開催の 3 回については，大森病院・東邦医学会による共同開催とする。
- ・祝日等で東邦医学会の開催時期が第二週からずれる場合は，病院 CPC の開催を東邦医学会に合わせることにする。
- ・開催時間は水曜日の 18 時から 19 時で固定とする。ただし前後の講演内容の時間配分によって若干の開催時刻のずれを許容することとした。

○東邦医学会雑誌への掲載について

- ・原稿の構成を次の通りとする：要旨，臨床経過（検査，画像等を含む），討論，病理解剖所見，質疑応答，当該症例の疾患に関する解説，参考文献（ここでの『討論』および『質疑応答』は，病理所見提示前の臨床的な要約を導くための議論および病理解剖所見提示後に行われる主に臨床医病理医間の質疑応答を指す）。
- ・初稿は，録音資料に基づく逐語録とする。この作成方法について東邦医学会事務局（以下事務局）より部内作成と外部発注の 2 案が提案され，外部発注とした。また，この原資は，東邦医学会運営費より賄うこととした。
- ・論文掲載費に関しては，東邦医学会例会・総会で発表した内容であることから，特段の掲載費は不要である旨が確認された。
- ・事務局は，初稿を当日の議論に参加した全ての教員及び職員（以下討論者）に配布する。討論者は自らの責任で初稿を校正し，必要な図（写真等を含む）及び表を添付し，初稿内に挿入部を記し，予め指定された期日までに事務局に返送する。
- ・最終稿の全文は全ての討論者により校正され，記述内容に関する責任は討論者全員が共有する。
- ・当該症例の疾患に対する解説及び参考文献は，臨床担当科の発表者及び上級教員が責任をもって作成する。
- ・刷上がり原稿は，討論を含む症例提示部が見開き 2 頁，質疑応答，解説及び参考文献で 2 頁程度とする。
- ・論文のカテゴリーは，業績評価の対象とされるべき要件であるとの考えから，投稿規定 I-3)-(1) に定められた原稿の種類における第 1 群に属する「症例」とすることとした。

- ・前項の議論に則り、当該論文は査読が必要となるが、その特性から科学的合理性を検証する必要は少ないが、複数の討論者による構成内容に関する整合性を検証する必要があるとの意見で一致した。更に、本件における実際の作業としては個人情報保護等の倫理的規範についての検閲が中心となるとの考えが示された。
- ・著者について次のように取り決めた。筆頭著者 (First author) は、担当臨床科の発表者とする。責任著者 (Corresponding author) は、症例の担当病理医とする。

○初期研修医のCPC評価について

現行の初期研修ではCPCに一定回数の参加と任意の症例を用いたCPCレポートの提出が義務づけられている。現時点で、医学部卒後臨床研修/生涯教育センターでは初期研修医の出席率に大きな問題は無く、これまでに規定の回数・レポート提出の遅滞により研修未修了となった事案がなかったことが報告された。

ただし、東邦医学会・大森病院共催CPCでは討論部分が論文となるため、その部分を見てしまうと、初期研修医の自己学習の障害になる可能性が指摘され、今後の検討課題とした。

○大橋病院および佐倉病院のCPC

本日議論されている共同開催CPCは、東邦医学会例会・総会の運営形態の改変によって生ずる例会・総会と従前定期開催されていた大森病院CPCとの衝突と参加者の分散を回避すると同時に、より高い水準での学才的知識の集約を効率的に図る為に提案された。大橋病院及び佐倉病院の教職員も同じく東邦医学会会員であり、各病院と東邦医学会との共同開催CPCの実現に向けて、関係者間での協議を進めたい。

○その他

- ・本打ち合せの議事録を東邦医学会雑誌直近発行号の「お知らせ」に掲載することが確認された。